

1) 覚醒の定義（ECS）：

- ・自発的な開眼 / 発語 / 合目的動作のいずれかを認めれば「覚醒あり」
- ・開眼がなくても、指示に合う動きや場に合った発語があれば評価に反映

2) 刺激の段階化（同条件で再評価）：

呼名 大声 有害刺激（爪床圧迫など）。刺激の種類・部位・持続を記録し、同条件で比較。

3) 術（痛み刺激でも覚醒せず）5段階の要約：

段階	反応（要約）	記録のコツ
-A	強い有害刺激で合目的動作	左右差・刺激条件を併記
-B	定位・払いのけ（刺激部位を狙う）	逃避と混同しない
-C	逃避（刺激から引っ込める）	回避のみを記録
-D	異常屈曲（除皮質）	屈曲優位を明確に
-E	伸展（除脳）またはほぼ無反応	伸展／無反応を明確に

4) ECS 判定（チェック欄）：

術：刺激なしでも覚醒（覚醒定義を満たす）

-1（清明） -2（見当識低下など） -3（会話遅い／不適切など）

術：刺激で覚醒（呼名 / 大声 / 有害刺激で反応）

-1（呼名で反応） -2（大声で反応） -3（有害刺激で反応）

術：痛み刺激でも覚醒せず（5段階）

-A：強い有害刺激で合目的動作 -D：異常屈曲（除皮質）

-B：定位・払いのけ（刺激部位を狙う） -E：伸展（除脳）またはほぼ無反応

-C：逃避（刺激から引っ込める）

メモ（刺激条件・左右差・鎮静の有無など）：
